

## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間 : 2018/08/15 ~2018/08/31 )

### 1. 勉学の状況

こちらに来て3週間が経ちました。最初の1週間はオリエンテーションに参加し、これからの派遣先大学での生活について（授業の履修の仕方や、登録の仕方など）の情報を得て、授業が始まるのを心待ちにしていました。今では無事に授業も始まり、友達も増えて来てやっと”生活している”と感じられるようになって来ましたが、最初は時間割が出なかったり、メールで問い合わせても返信がこなかったりと自分の留学生活は、授業はいつから始まるんだろうと不安に感じていました。

今取っている授業は「Aesthetic Learning Method – early children education」という授業で、なんと受講生は5人しかいません。ドイツ人が3人とエストニア人、私です。5人で課題の本を読んできてお互いの経験を交えながら pre-school education について話し合ったり、他のスウェーデン人学生と混じって音楽・演劇・芸術のワークショップに参加したりして知識や経験をし、最終的には学んだことについて5人でプレゼンをするようです。周りの学生からそれぞれの幼少期に経験について話を聞くのも面白いし、メンターの先生もとても優しい良いおじさんで、留学生活最初の授業、これを取ってよかったなと思っています。9月第2週からはスウェーデン語の授業も始まるので、ドイツ語話者において行かれないよう（留学生はドイツ人が多く、スウェーデン語はドイツ語話者にとって習得が比較的簡単と言われているので）、頑張っていきたいと思います。



## 2. 生活の状況

私は履修予定の授業の行われるキャンパスの関係で、メインキャンパスの位置する Linköping からバスで 1 時間ほど離れた Norrköping という街に住んでいます。Norrköping の街は徒歩で生活が完結できるくらいにコンパクトで、スーパーもショッピングセンターも大学も 15 分ほど歩けば行くことができ、便利です。街には大きな川も流れていて（キャンパスの中にも続いています）、景色も街並みも Norrköping が大好きになりました。

多くの友達はみんな Linköping に住んでいるので、Linköping にもよく遊びに行きます。平日は無料のキャンパスバスで、土日は電車で友達に会いに行っており、どちらの街も体験できてお得な気分です。日本語を話せるスウェーデン人の友達もたくさんできたので、日本語でスウェーデンについて教えてもらったり、生活の中でわからないことをサポートしてもらったりしています。

まだまだ始まったばかりですが、周りの友達にも恵まれ、3 週間経ってだんだんと生活が楽しくなってきました。授業のスケジュールも日本にいたときとは比べ物にならないくらい余裕があり、学校の勉強の他に自分のやりたいことにも挑戦できる時間が多くあり、これからの生活の中でどのように時間を使って行こうか、またどんな風に自分が生きて行くのか楽しみです。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/09/01 ～2018/09/30 )

### 1. 勉学の状況

こちらに来て2ヶ月ですが、もう最初の授業が終わり、新しい授業が始まりました。スウェーデン語の授業は9月の2週目から始まり、今の所はついていけているので安心です。私のクラスは約30人ほどですがマスターの生徒が多く、交換留学生は少ないです。私を含め5人程でしょうか。スウェーデン語は発音がとても難しく、文章を書けても読めないことがよくあります。Writingのテストの他に、Oralのテストもあるので、準備が大変そうです。授業の他に、日本に興味のあるスウェーデン人の学生との交流会にも参加し、そこで発音や言い回しを教えてもらっています。みんな丁寧に色々教えてくれるので、心強いです。いつかは、スウェーデン語だけで会話ができるように、周りのみんなに助けられながら、頑張っているところです。

もう一つ、これから教育実習が始まります。わたしはスウェーデンの保育園で、1~3歳の子どもたちと一緒に活動をさせてもらう予定です。まだ実習先には行けていませんが、子どもたちに会うのも、スウェーデンの保育園に実際に行き、取り組みを自分の目で見られるのも、ほかの学生と各自の実習について情報や経験を交換するのも、楽しみです。

こちらの大学の授業では、先生と学生の距離が非常に近いなと感じます。わたしが取っているのが少人数の授業であるのも関係しているかもしれませんが、授業の最初にはちょっとしたおしゃべりをし、お互いのことを知るきっかけをつくったり、先生が前に立って講義を行うよりも、みんなでテーブルを囲って全員が発言をしながら、その発言によって授業が進んで行ったり、「話す」ことに慣れるまではストレスに感じることもありました。今ではこういうスタイルの授業の進め方も楽しいなと感じています。



## 2. 生活の状況

9月も終わりに差し掛かり、だんだんと日が落ちるのが早くなってきました。こちらにきた頃は夜の9時でも明るくて、外出できそうな感じだったのですが、今では6時ごろには暗くなり始め、7時には外出を控えようかと思ってしまうくらいに真っ暗です。気温も下がり始め、街にはコートを着ている人も増えて着ました。だんだんと冬に近づいていることを実感している中で、9月でこの寒さだと冬はどうなってしまうのだろうと少し不安です。

9月末には、こちらで知り合った友だちと、ヨーテボリまで遊びに行ってきました。ヨーテボリは小さくておしゃれなお店がたくさんあり、街もおしゃれなので歩いているだけで楽しいです。スウェーデンで1番大きなシナモンロールを食べに行ったのですが、私たちがついた頃には売り切れだったので、またいつかリベンジしたいなと思います。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/10/01 ～2018/10/31 )

### 1. 勉学の状況

10月を振り返ると、教育実習に明け暮れていた毎日だったなあという感想です。私が実習先として通っていたのは、スウェーデンの、ある preschool で担当は1歳～3歳児のクラスでした。実習が始まる前に心配だったことは、言語の壁でした。私は勉強してはいるものの、会話になるレベルまでスウェーデン語を話すことはできず、子どもたちは基本的にスウェーデン語しかわからないという状況で、どのようにコミュニケーションを取り、仲良くなっていくかが最初の課題だなあと感じていましたが、その心配は1日目にして消え去りました。見ず知らずの私に「Hej!」と声をかけてくれる子どもたちがいたり、最初は「誰だ?」と少し警戒していた子たちにも、周りの先生方のサポートもあり、少しずつ打ち解けてもらえることができ、それ以降日を追うごとに懐いてくれる子どもも増え、最近では私を見つけると駆け寄ってきてくれることもあります。私もほんの少しですがスウェーデン語に慣れ、上達してきて、言葉によるコミュニケーションに成功する回数も増えてきました。日本で自分が通っていた幼稚園、ボランティアを経験させてもらった保育園とは異なる、スウェーデンの preschool という環境に、実際に身を置き、自分の経験として様々なことを学ばせてもらえるこの機会にとっても感謝しています。

また、実習先での活動と並行して、同じ授業を受講している留学生と、大学の先生とともに自分たちの経験のシェアや、それに基づくディスカッションをする時間も設けられています。私以外の学生は皆、日本でいう小学校の年代の教育機関に行っているのも、他の学生の経験を聞くのもまた面白いです。大変なことももちろんありますが、今回のこの授業は、自分にとって良い授業選択ができたなあと思います。

そして10月末から始まる新しい授業は、スウェーデンの教育という枠組みの中で、各自が興味のある内容についてフィールドワークを実施し、実際にリサーチをしてまとめるというものです。今回の教育実習を通して見えてきた「気になるところ」のひとつをリサーチしてみようと思っています。こちらで選択した授業は、各授業同士の繋がりが目に見えた形で存在しているので、その繋がりがやる気にも繋がっています。シラバスを読んだところ、大学の講義として授業が設定されているのは4回のみで、それ以外は完全に個人ワークになるようです。こちらの授業は今まで受けたものも含め、個人ワーク重視であるように感じます(私が今までとった教育の授業がそういう傾向にあったものだったのかもしれませんが)。これがいいのか悪いのかは一概に言えませんが、もっと大学に通いたいなあというのも本音です。

## 2. 生活の状況

10月の最終週に一気に冷え込み、そこからは凍えるような寒さが続くようになりました。真冬用と思っていたアウターを、こんなに早く利用することになるなんてと驚いています。日が昇るのも遅くなり、朝起きて薄暗く、日中も曇り空の毎日が続いていますが、今のところは元気に過ごせているので安心です。サマータイムも終わり、日本との時差が8時間になりました。サマータイムの終わりの不思議な1時間を体験しようと思っていたのですが、知らぬ間に寝てしまっていて、起きたらもう終わっていました。残念です。

今回は、こっちにきてからの食事について少し書こうと思います。スウェーデンは物価が高い、外食もできないと聞いていたように、こちらにきてから外食をしたのは数えきれないほどの少ない回数です。私は大学に、学食のようなものがあると思い込んでこちらへ来たのですが、驚いたことにリンショーピン大学には学食はなく、ほとんどの学生がお弁当を持ってきてそれを食べています。なので、学食はないですが、お弁当を温める用に、大量の電子レンジは用意されています。学食もなく、外食も滅多にできない生活では、自炊するほか方法がなく、スーパーには詳しくなれました。基本的にはパスタとパンばかり食べていますが、たまにお米を炊くこともあります。この間は、友だちにもらった日本のカレールーを使ってカレーを作りました。普段はそんなに感じないのですが、日本の食べ物を食べると「あーみんな元気かなあ」と日本が少し恋しくもなります。これからさらに寒くなってくるので、いろんなスープを作って、極寒のスウェーデンの冬を乗り切りたいと思います。





## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/11/01 ～2018/11/30)

### 1. 勉学の状況

冬の Semester も、残すところ授業が一つとなりました。11 月に取っていた授業は「フィールドワーク」で、各自が「教育」に関係した分野において興味のあるテーマを設定し、自分たちで調査を行なってレポートを書くと言う授業でした。受講していた生徒は 6 人で（これでも今までこちらで受けた授業の中で最大人数です！）、大学で講義が行われるのはたったの 4 回（そのうちひとつは評価対象のディスカッションの日）と言う環境で、どこまで自分か大学の授業から「フィールドワーク」について学べたかは正直わからないところなのですが、個人の興味に従った活動ができ、それを他の学生たちとシェアできたのは、良い経験でした。

9 月から受けていた「スウェーデン語」の授業も、筆記のテストが終わり、残すところはオーラルのテストのみというところまでできました。日本にいた時には、外国語のオーラルのテストを体験したことがなかったので、本番までドキドキです。日常生活の中でも、道で話しかけられた時や、スーパーに買い物に行った時など、途中までスウェーデン語で会話ができることも増え、はじめはわけがわからないと思っていたスウェーデン語も、勉強すればできるんだと、少しずつ自信に変わり始めています。春からの Semester ではスウェーデン語の授業は取らないため、学校で習うことのできる機会はここまでで終わってしまいますが、引き続き、自分の力で勉強を続けていきたいなと思っています。

### 2. 生活の状況

11 月の終わりに差し掛かる頃、こちらでは初雪が降りました。そんなに量は多くなく、今は雨が降ったこともあり溶けてしまっているのですが、とうとう本格的な冬が来るのかという感じです。街にはクリスマスの飾りやイルミネーションも増え、暗い時間の長い毎日の中でも、キラキラした街の明かりを見られるのが楽しいです。

今月はこちらにきて 3 ヶ月経って初めて、首都のストックホルムへ観光に行きました。私の住んでいる街からストックホルムは、バスで 2 時間～2 時間半ほどかかるため、なかなか機会がなく、行けていなかったのですが、ずっと行ってみたいと思っていたこともあり、高い丘の上からストックホルムの街並みを眺められた時は、とても嬉しかったです。ストックホルムに住んでいる友だちもできたので、また定期的に行きたいなと思います。

「スウェーデン人は太陽が大好き」とこちらにきた時にちらっと耳にしたのですが、最近になってその理由が少しわかってきたような気がします。こちらでは冬になると曇りの日が続く、空を見上げても灰色の雲が広がっていることが多く、太陽の光を浴びられることがレアなのです。そのため、太陽が出てきた時には「太陽だ!!!」と嬉しくなることから、「スウェーデン人は

太陽が大好き」と言われていると聞きました。これがどの程度本当なのかはわかりませんが、私はもう、太陽が出た日には踊りだしたくなっちゃうくらいに「太陽が大好き」です。

これからの1ヶ月は、クリスマス、お正月と、イベントの面からスウェーデンの文化や暮らしを体験できる期間になると思います。こちらでは、クリスマスが家族や親戚と一緒に時間を過ごす機会、友だちとわいわいするのは年越しだそうで、クリスマスマーケットや街中のお店の雰囲気から、クリスマスを皆が心待ちにしているような雰囲気が伝わってきて、街を歩くだけでも楽しくなってきます。寒くて暗いスウェーデンの冬ですが、12月はクリスマスのイルミネーションと楽しい雰囲気のおかげで、楽しく過ごせそうです。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2018/12/01 ～2018/12/31 )

### 1. 勉学の状況

12月の初日、1日にスウェーデン語の筆記のテスト、11日にはオーラルのテストがあり、9月から始まったスウェーデン語の授業が終わりました。筆記のテストは比較的簡単で、授業内容を理解し、過去問で対策すれば合格点は取れるテストだったので、ひとまず安心でしたが、オーラルのテストは、日本で言語を学んでいた時には受けたことがなかったため、とても緊張しました。本来ならば3人1組のグループで先生とスウェーデン語で会話をする形式なのですが、私のグループの人がテスト当日に来ず、私はマンツーマンでテストを受ける羽目になりました。今となってはいい思い出ですが、テストの最中は何を質問されるのかとドキドキが止まりませんでした。

その期間中に、秋セメスター最後の授業「Children and Families in a World of Education」という授業が始まり、スウェーデンの教育現場における言語政策を学んだり、「子どもの権利条約」を題材としたワークショップなどに参加しました。クラスメートは18人ほどおり、こちらに来てからは少人数の授業ばかりだったので、久しぶりの講義形式の授業が楽しく感じています。1月にこの授業のレポートを提出し、それに基づいた exam seminar を終われば、2018年の秋セメスターの授業は完結です。残り少し、頑張りたいと思います。

### 2. 生活の状況

12月の12日に年内ラストの授業を終え、年始の授業始まりは1月15日の exam seminar の日なので、今年は1ヶ月ほど冬休みがもらえることになりました。その間、レポートやテストに向けた準備等がありますが、夏休みもなく、春休みもない留学スケジュールの中で取れる、最初で最後の(?)まとまった長期休みなので、やることはやりつつも満喫したいと思います。

冬至を超えましたが相変わらず毎日暗い時間が多く、夕方の15時半ごろにはすでに夜景が楽しめるくらい真っ暗です。旅行先で綺麗な夜景が見たい時には、早い時間から楽しめるため、得した気分になりますが、普段の生活では暗くなるのが早いにつられ、眠くなるのも早いです。もう慣れましたが、やはり朝起きて真っ暗なのはあまり嬉しくありません。

12月といえばクリスマスです。スウェーデンでは、クリスマスが、日本のお正月のように親戚や家族が集まって過ごすイベントなので、今年のクリスマスはひとりぼっちになるのかと思いきや、スウェーデン人の友人が、実家のパーティへと誘ってくれました。家に着くと正装した家族の皆さんがにこやかに迎えてくれ、一緒にご馳走を食べ、ゲームをしたりTVを見たり、プレゼント交換をしたり、あたたかな雰囲気の中でクリスマスを楽しませてもらいました。友人や恋人と、おしゃれなレストランや綺麗な夜景の中で過ごすクリスマスもいいけれど、家族や親戚と

集まり、ゆったりとお家の中で時間を過ごすクリスマスも素敵だなと思いました。毎年クリスマスになったら思い出すような、素敵な思い出ができました。

また、冬休みの東欧旅行ではウィーンとプラハへ行き、クリスマスマーケットを堪能してきました。この時期の旅行は寒さとの戦いにもなりますが、寒いこの時期だからこそ、雪景色や綺麗な街並みが楽しめ、よかったです。贅沢な冬休みを過ごしたので、1月からまた学校が始まった後は、エンジン全開で一生懸命に学んでいきます。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/01/01 ～2019/01/30 )

### 1. 勉学の状況

新しい年も始まり、こちらでの新たなセメスターも始まりました。1月の初めは、前のセメスターの最終テスト週間があり、それが終わるとそのまま新しいセメスターの授業が始まるという感じで、1月は慌ただしく過ぎていったなという感想です。春のセメスターからは、メインキャンパスの方で授業を受けるため、毎日バスに乗って1時間通学しています。前は1ヶ月単位で変わっていく授業を主に取っていましたが、今回からは3ヶ月、もしくは半年間続く授業を選択したので、前よりも忙しくなりました。授業内容も、教育関係のものから北欧の文化、スウェーデンの政治や政策を学ぶものまで、少し範囲を広げて取って見たため、ついていくのに必死の授業もありますが、新しい分野の勉強も楽しいなと感じています。

その中でも一番楽しみにしていた授業は、北欧の文化を学ぶ授業で、授業ごとにテーマが変わり、いろんな先生が授業をしに来てくれます。本格的に内容が始まるのは2月からなので、授業の内容についてはまだ、どうなっていくのか、本当に面白いのかはわかりませんが、シラバスや授業のスケジュールを読む限り、とても楽しそうです。参加学生も世界中の様々な国からの留学生が揃っており、韓国や香港等アジア圏の学生もいれば、チェコやベルギー等ヨーロッパ圏の学生もいます（他にも色々な国からの学生がいましたが、多過ぎて忘れてしまいました）。50人ほどが参加する授業なので、そこでたくさん友達を増やすのも目標の一つです。

また、この授業は、講義のみで学ぶのではなく、実際に文化を体験して、経験として学ぶというのも内容のひとつで、2回のクラストリップがあります。1回目は、2月の4日から8日まで、スウェーデンの北部の地域に行きます。何をするのかはまだよくわかっていませんが、まずは5日間、楽しみながら学んで来たいと思います。

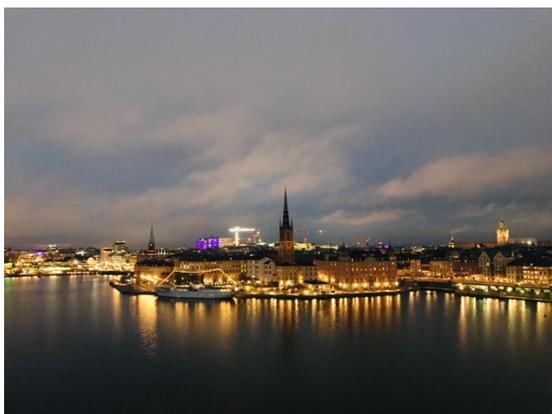
### 2. 生活の状況

1月も終わる頃になると、太陽が出ている時間が長くなってきました。8時ごろには明るく、夜も4時・5時くらいまでは明るい時間が続いています。日本と比べたら何言ってるんだと思われるかもしれませんが、スウェーデンでは、ひどい時期は朝10時ごろに太陽が昇り、3時には沈んで真っ暗という時期もあったので、嬉しいです。しかし寒さは厳しくなるばかりで、もう怖くて気温を見ることができません。聞いた話によると、2月が一番寒いようなので、あと1ヶ月の辛抱と思い、耐えられるよう頑張ろうと思います。

1月末には今まで一緒に住んでいたフラットメイトが母国へと帰り、2月1日から新しいフラットメイトがきます。学校から帰ってきて、ピカピカに掃除された台所や、日に日に整理されて綺麗になっていく棚の中、玄関に並べられて大きなスーツケースを見たときには寂しさがこみ上

げてきましたが、気持ちを切り替えて、次の半年間一緒に過ごすフラットメイトと良い関係を築いていきたいです。

半年間早くきていた日本人の留学生の友達が日本に帰ったり、自分も帰りのフライトを探し始めたりと、着々と帰る日が近づいていることも実感し始め、嬉しさ半分寂しさ半分な毎日ですが、目の前の課題や、新しい友達作りに励んで行こうと思います。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/02/01 ～2019/02/28 )

### 1. 勉学の状況

2月の勉強の中で1番印象に残っているのは、月初めの2～8日の5日間の間に参加した授業のクラストリップ（フィールドワーク）です。スウェーデンの北部「Åre」という地域へ行き、現地の博物館に行って歴史を学んだり、スカンジナビア半島の北部に住んでいる「Sami」という先住民族と言われる人たちのお話を聞いたり、凍った湖の上でスキーやスノーシューをしてウィンターアクティビティを楽しんだり、様々な体験・経験を通してスウェーデンについて、北欧の文化について学んできました。Åreまではバスで13時間ほどかかるので、移動中には先生のミニ講義や映画鑑賞が行われたのですが、見渡す限りの雪道を走っている最中に「アナと雪の女王」を先生が流し始めたときには、映画のチョイスになんだか笑ってしまいました。

プログラム中には、8～10人ほどのグループに分かれてのグループワークもあり、スウェーデンに昔から伝えられている様々な生き物（首が二つあるドラゴンやトロールなど）を使った劇を、脚本から自分たちで考え、作り、発表しました。このグループ活動が、私の中では一番「大変だったけど、頑張ったいい思い出」として残っています。先週、このフィールドワークについてレポートを提出し終え、今はグループでのプレゼンの準備をしています。3月頭のプレゼンに向けて、頑張りたいと思います。

また、そのほかの授業の中で面白かったものは、「Special Education」について学ぶ授業で、Study Visitとして子どもたちの学びをサポートする機関へ訪れたことです。子どもたちが必要とするサポートによって、様々な道具が用意されていたり、PCを活用した教育ツールがたくさんありました。その中には、自分が小学生や中学生の時にこのようなツールがあったら、もっと学びが楽しくなっていたのかなと思うものもあり、スウェーデンの子どもたちが少し羨ましくなりましたが、それらを実際に見て、体験できたのが貴重な経験だと思っています。

今のセメスターは1ヶ月で終わる授業をとっていた前回とは違い、授業が長期にわたって開講され続けるので、勉強を通してクラスメイトとも仲良くなれ、嬉しいです。こちらで学べるのもあと4ヶ月となり、時の早さに驚いています。残り4ヶ月の学びを最大化できるように、これからも頑張りたいと思います。

### 2. 生活の状況

2月になり新しくイタリアとフランスからフラットメイトが来て、家の中の雰囲気は前半とはまた変わり、新鮮な気持ちで毎日過ごしています。基本的には、各自が自分の部屋を持っているので、常に一緒にいるわけではないのですが、一緒にご飯を食べることも何度かあり、少しずつ仲良くなれてきているような気がします。また、クラストリップの最中に仲良くなった8人ほ

どの留学生のグループがあり、そのメンバーとも学校でおしゃべりをしたり、夜ご飯を一緒に作ったり、各国の料理を振る舞い合ったりと、交流が続いています。学校の授業がきっかけで私生活の中でも仲良くできる友達ができ、毎日充実しています。

また、今年の2月は異例の天候で、とても暖かく、「もう春が来たのか」と勘違いするような日も多くあります。まだ時々寒く、雪が降る日もありますが、少しずつ暖かくなってきており、一番寒さの厳しい時期は乗り越えたのかなという感じです。毎日曇りで、どんよりとしていた11月からは考えられないくらいに、太陽が輝いていて、気分良く毎日を過ごせています。

留学生活も残り4ヶ月というところで、年始に申し込んでみたブラスバンドへの入団が認められ、留学先の大学でサークルに所属できることにもなりました。3月から本格的に活動に参加させてもらえるようなので、それも今から楽しみです。勉強ももちろん頑張りつつ、残りの期間の中で一つでも多く、自分の中に残る経験ができるように、さまざまなことに勇敢に飛び込んで行ってみたいと思います。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/03/01 ～2019/03/31 )

### 1. 勉学の状況

3月は2つ大きなプレゼンがあり、普段の授業に加えてグループワークを中心に取り組んだ1ヶ月でした。一つは2月に行ったフィールドワークについてのプレゼン、もう一つは「Special Education」という授業の中で行った、様々な教育機関や学校訪問についてのプレゼンでした。どちらもグループのメンバーのおかげで無事に終わることができたので、今は安心してます。プレゼンを作っていく段階では、グループのテーマについてみんなで話し合うことはもちろん楽しかったのですが、2つのプレゼンはそれぞれ違う授業の、違うメンバーと作ったので、そのプレゼンを作る過程の違いや、各々の取り組み方の違いを見ているのも私にとっては面白かったです。

また、今月は「Special Education」の授業が終わります。4月の頭までは最終レポート等で少し忙しいのですが、それが終われば比較的ゆったりとしたスケジュールで、他の授業にも取り組めそうなので、あと少し頑張りたいなと思います。日本で「特別支援教育」についての授業をとったことがなかったので、最初はついていききれない部分もありましたが、振り返ってみると扱っているテーマについても考えることがたくさんで、それぞれの意見や考えを話し合うのも勉強になって楽しかったし、学校見学や教育機関への訪問もあったので、面白い授業だったなと感じます。

スウェーデンや北欧の政治について学ぶ授業では、今月は「Welfare State」がテーマでした。北欧の福祉政策を「男女平等」の視点から説明している文献を扱っていたからか、授業のセミナーでの話し合いでも各国の制度についてのみならず「男女平等」についての話がたくさん出てきました。特に結婚後のキャリアや育児についての話題は自分の中で考えさせられることが多かったです。この授業は自分の興味のある「教育」の分野から少し離れて、北欧やスウェーデンについて学びたいと思ってとった授業だったので、時々難しすぎて諦めたくなる時もありますが、今月のテーマは比較的理解もしやすく、また興味を持って取り組める内容だったので良かったです。

### 2. 生活の状況

2月の末には春が来たかと思うほどの暖かな気温で、もうスウェーデンの厳しい冬は乗り切ったのだと思っていたら、その直後からまた一気に冷え込み、冬に逆戻りしたような気候が続いた1ヶ月でした。今月もしっかりと寒かったです。でも月末になってほんの少しずつですが、暖かくなってきているような気がしているので、もうすぐスウェーデンにも春が来てくれるのかなとワクワクしています。

今月から入った音楽のサークルは、練習が週に一回しかないため、まだあまり環境に慣れてい

ませんが、メンバーみんながとてもいい人たちばかりなので、残りの3ヶ月間はやっていけそうだなと感じています。日本で吹奏楽をやっていた時とは全く違う練習環境や、練習方法に戸惑うこともあります。スウェーデンに来てまでも、楽器を吹けることが嬉しいなと思います。

その他私生活では、フラットメイトと3人で一緒にご飯を作って、おしゃべりをしながらご飯会をしたり、こちらで仲良くなった友人とメロンパンを作ったりもしました。来月は、イースターがあるので、友人宅にお邪魔して、スウェーデンのイースターを体験させてもらおうと思います。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/04/01 ～2019/04/30 )

### 1. 勉学の状況

4月はイースターの休暇があったので、比較的ゆったりとした授業スケジュールで、学校生活よりも私生活の方が充実していたように感じます。でもその中でも、4月の頭には提出レポートが3つあったので、前半は少し大変でした。

今月の授業の中で一番楽しかったのは「Nordic Culture」という授業の中での、スウェーデンの伝統料理を作るワークショップです。今月はイースターがあったので、それにちなんだ伝統料理を2時間ほどかけ、グループに分かれて作りました。授業と呼ぶよりは、楽しくスウェーデンの文化を体験するアクティビティのような位置付けだと思いますが、これが一番楽しかったです。みんなと一緒に料理を作って、一緒に食べて、また一つクラスの仲が深まったように感じます。

「Nordic Culture」のその他の授業では、「Nordic Art」や「Nordic Music」、「Nordic Literature」が取り上げられました。内容は興味深いものも多かったのですが、講義を通して、欧米圏からの留学生に比べて、前提となる背景知識や幼い頃の経験が浅いなど感じることも多かったです。育った国や環境、文化が違うのしょうがないことでもあるとは思いますが、みんなが共感している部分に共感できないのは少しさみしかったです。

スウェーデンの政治を学ぶ授業では、授業テーマが最後のテーマである「Migration」になりました。先月の「Welfare state」に引き続き、自分の興味のあるテーマなので、話を聞いているのが楽しいです。授業の最終テーマでもあるので、気を引き締めて頑張っていこうと思います。

### 2. 生活の状況

寒さの厳しかった2月も、天候の読めない不安定な3月も乗り越え、スウェーデンにもやっと本物の春がやってきました。4月中旬を超えた頃から、暖かい日が続くようになり、春服・夏服で過ごせるようになってきました。また街中のカフェも、冬の期間は撤去していたテラス席を設置し始め、サングラスをかけながら太陽の下で過ごしている人を見ることも多くなってきました。太陽が出ているときは、なるべく外に出て太陽に当たる・陽の光を楽しむという考えが個人的にすごく素敵だなと思います。これから訪れる夏が楽しみになってくる季節でした。

4月の中旬には、スウェーデン人の友人の実家へと招待され、一緒にイースター休暇を過ごしてきました。自分の住んでいる街から少し離れたカントリーサイドにあるお家は、「スウェーデン」と聞いたときに浮かんでくるイメージ通りのお家で、「Nordic Culture」の授業の中で見た写真や訪れた博物館の展示を思い出しました。初日はいとこの家族と一緒に夕食を食べ、私のスウェーデンでの留学生活や日本の文化、スウェーデンの文化などについておしゃべりをしました。

2 日目の夜は親戚が大集合して、16 人ものスウェーデン人の中にポツンとひとり日本人が混ざっているような状況でしたが、両隣に座ってくれた人が英語で会話を通訳してくれたり、おしゃべりしてくれたりと気にかけてもらったおかげで楽しむことができました。イースターは、日本のお正月のような雰囲気、親戚がたくさん集まり、一緒に時間を過ごす大切な日だなと感じました。日本に帰ったら私も、以前よりも家族と過ごす時間を大切にしたいと思わせてくれる経験になりました。



## 海外派遣留学プログラム月間報告書

(報告期間：2019/05/01 ～2019/05/31 )

### 1. 勉学の状況

5月前半は今までと変わらないスケジュールや内容で進んでいた授業も、留学期間最後の月ということもあり、後半にはテストやセミナー、プレゼンが増え、今まで一番忙しく大変な1ヶ月でした。特にスウェーデンの政治を学んでいた授業では、通常のセミナー後、ファイナルペーパーの提出まで1週間しかなく、他の授業も並行して進んでいる中だったので、想像以上に時間のやりくりが悩まされました。しかしレポートの内容自体は、日本とスウェーデンの育休制度について取り上げ、自分の興味のある内容だったため、調べたり、書いていくことは楽しかったです。

私は泊りがけのセミナーがある授業をふたつ取っているのですが、5月の3週目にそれらのセミナーが立て続けに入ったことも目まぐるしい5月の原因です。ひとつめのセミナーは「Outdoor Education」という授業のセミナーで、今まで学んできたことの集大成として、スウェーデンの無人島にキャンプをするという内容でした。港からカヌーをレンタルし、自分たちでカヌーを漕いで無人島まで約1時間、周辺の自然やそこに生息している生物、他の島々を観察しながら移動しました。一見、遊んでいるようにしか見えないセミナーですが、天気についての講義やウッドワークのワークショップがあり、また子供達とこのようなアクティビティをする

際に注意すべきことなどについても学ぶことができました。トイレも電気も水道もない無人島で過ごした1泊2日の期間は、この授業を取っていなければ経験することのできなかつた経験、そして大きな思い出になりました。

ふたつめのセミナーは、ひとつめのセミナーと同じエリアでのセミナーでしたが、今度は違う視点から、そのエリアについて学ぶことができるセミナーでした。実際に自分たちが訪れた無人島周辺の島に住んでいる島民から、島での生活について生の情報を得たり、ミュージアムを訪れて同じエリアの過去の暮らしについても学んだり、視点が違うと同じところを訪れても得られる情報がこんなに違うのだなと思いました。

その後はそれらのセミナーについてのレポートを書いたり、それらのセミナーで得た知識をさらに深め、プレゼンとして発表したりアウトプットをして5月が、そして私のスウェーデンでのすべての授業が終わりました。

## 2. 生活の状況

5月は勉学でも忙しい期間でしたが、生活面でも様々なイベントがあり、今までで一番あっという間の1カ月でした。5月の頭には地元から仲の良い友達が来てくれ、スウェーデンで行きたかったところ、やり残していたことを一緒に楽しみ、2週目には所属している吹奏楽部で大きなイベントがありました。そのイベントは4日間に渡るフェスのようなもので、スウェーデン中の吹奏楽部が私たちの街に集まり、ステージでパフォーマンスをしたり、パレードで街中を歩き回

ったりととても楽しかったです。日本とは違うスウェーデンの部活に、最初は戸惑うことも多く、心の中で受け入れられないこともありましたが、今ではこの居場所がとても好きになり、だんだんとメンバーとも仲良くなれてきた頃なのに帰国が迫っているのが残念です。

その他には、こちらで出会った日本人の留学生の友人とともに、隣町の小学校 6 年生のクラスと就学前教育を行っているクラスに見学に行きました。幼稚園では教育実習をしていましたが、小学校には行ったことがなかったため、興味津々でした。小学校 6 年生のクラスでは、訪れた日がちょうど運よく子供たちとも関われる内容の授業が行われる日だったので、何人かの生徒とも話すことができ、楽しかったです。個人差はありますが、小学校 6 年生でもう英語で普通に会話ができることに驚きました。就学前クラスは、小学校入学前の 1 年間、小学校への準備・移行期間として設けられ、昨年に義務化された制度であるため、比較的新しく、先生からの意見を聞くのも興味深かったです。就学前クラスとはいえ、元々はまだ幼稚園にいた年齢の子供たちだったので、エネルギーに溢れ体力満タンの子供達が多く、一緒に遊ぶのも楽しいけれど少し大変でした。スウェーデンにいる期間中に、ここでしかできない経験ができたなあと思います。

帰国を目の前にすると、冬の期間はあんなに日本に帰りたいたいと思っていたはずなのに、まだ帰りたくない、足りないという気持ちが湧いてくるから不思議です。1年間の留学期間を通して、たくさんのことを経験し、たくさんの友達ができ、スウェーデンという国が大好きになりました。周りの支えてくれる大切な人たちなしには、このような機会を自分が掴み、そこでこんなにも成長することはできなかつたと強く感じています。残りの期間は目一杯、こちらでできた大切な友

人たちとこちらの生活を満喫し、日本に帰国した後は、支えてくれた大切な人たちに、たくさんの思い出話とともに感謝を伝えに行きたいなと思います。

